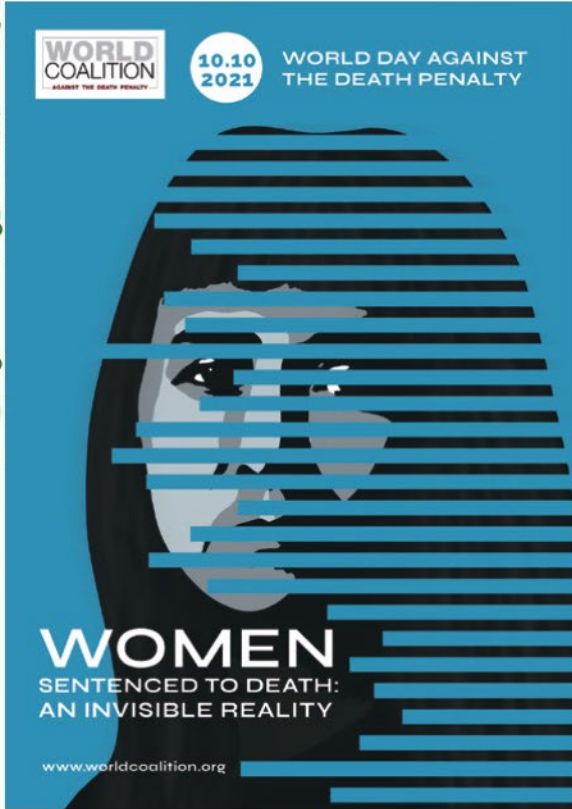


司法がつくる差別、司法がただす差別

響かせあおう 死刑廃止の声 2021

世界死刑廃止デー企画



WDAPCの2021年版のポスター

10月9日(土)

開場12時 開会13時 終了予定17時

角筈区民ホール

東京都新宿区西新宿4-33-7 (地図は裏面)

■予約方法

会場での参加をご希望の方は、2021年9月18日(土) 正午からフォーラム90ホームページ (<http://forum90.jp/>) の「響かせあおう死刑廃止の声2021 Web予約フォーム」よりお申し込みください。先着100名とさせていただきます。

入場無料 完全予約制

◆この集会をインターネットで同時中継します。フォーラムのホームページ経由でご覧ください。

◆緊急事態宣言の延長などで会場が閉鎖された場合はYouTubeライブ配信のみとさせていただきます。



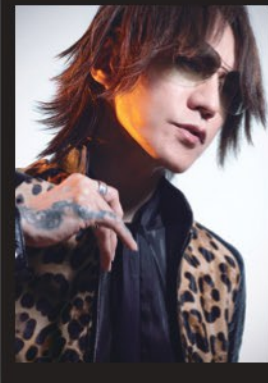
集会の賛同団体・賛同人募集!

1口2000円で、当日プログラムでお名前を紹介します。振替用紙に、10月集会賛同金と明記し、ご送金ください。
[9月末着までの受付とさせていただきます]

◎シンポジウム

SUGIZO×徳田靖之×青木理

MC=ジョー横溝



SUGIZO

作曲家、ギタリスト、ヴァイオリニスト、音楽プロデューサー。日本を代表するロックバンドLUNA SEA、X、JAPANのメンバーとして世界規模で活動。同時にソロアーティストとして独自のエレクトロニックミュージックを追求、更に映画・舞台のサウンドトラックを数多く手がける。昨年、サイケデリック・ジャムバンド SHAGを12年振りに再始動。音楽と並行しながら平和活動、人権・難民支援活動、再生可能エネルギー・環境活動、被災地ボランティア活動を積極的に展開。アクティヴィストとして知られる。

徳田靖之(とくだやすゆき)

弁護士。主たる担当事件としては、みどり荘事件、飯塚事件、菊池事件、薬害HIV訴訟、ハンセン病国賠訴訟、障がい児教育権訴訟など。著書に「作られたエイズパニック」、「エイズを生きた子どもたち」、共著に「緊急提言! 刑事再審法改正と国会の責任」「死刑執行された冤罪・飯塚事件」などがある。



青木理(あおきおさむ)

ジャーナリスト。元共同通信社記者。TVコメンテーター。死刑関連の著書として「絞首刑」「誘蛾灯一鳥取連続不審死事件」(講談社)、「情報隠蔽国家」「時代の抵抗者たち」「時代の異端者たち」(河出書房新社) など多数。



◎死刑廃止のための大道寺幸子・赤堀政夫基金:死刑囚の作品展と講評

選考委員 香山リカ/北川フラム/嶋田美子/中村一成/太田昌国 (当日、出席できない方もおられます)

新型コロナ対策について

受付で検温をし、マスクの着用、手指の消毒をお願いします。席は一人おきとし、会場内での飲食、大声での会話はお控えください。

死刑囚表現展2021

11月5日(金)~7日(日) 松本治一郎記念会館

主催: 大道寺幸子・赤堀政夫基金/フォーラム90

死刑廃止国際条約の批准を求めるFORUM90

〒107-0052東京都港区赤坂2-14-13 港合同法律事務所付

TEL: 03-3585-2331 FAX: 03-3585-2330 振替口座: 郵便振替00180-1-80456 加入者名: フォーラム90

<http://www.forum90.net/>

死刑廃止のための大道寺幸子・赤堀政夫基金について

生前、多くの死刑囚や獄中者に面会し、励まし、「生きて償う」ことを共に模索し、死刑囚の母として、社会、国際機関、メディアに対して、日本の死刑制度の実態、死刑囚処遇、死刑囚の人権について語り続けてきた大道寺幸子さんが2004年5月に亡くなりました。「死刑制度をなくしたい」「死刑囚の人権は保障されなければならない」という幸子さんの遺志を生かすため、遺された預金を元に、基金が創設され、死刑囚の再審請求等への補助金、死刑囚の表現展の開催と優秀作品の表彰のために使われることになりました。

当初の予定だった10年間に過ぎましたが、冤罪事件の元死刑囚赤堀政夫さんから資金提供の申し出があり、2015年からは「大道寺幸子・赤堀政夫基金」として再出発することになりました。「死刑囚の表現展」へ応募された文芸作品は何冊も出版され、絵画作品は多くの絵画展で紹介され注目を集めてきました。毎年「響かせあおう死刑廃止の声」の集会で、その年の応募作品の講評や展示を行っています。今年はその17回目です。これらの作品が「日本に死刑制度があった時代の記録」となることを願って……。

なお2021年度全応募作品の展示は、昨年同様、松本治一郎記念会館で開催します。

表現展選考委員

加賀乙彦 (かが・おとひこ)

作家。死刑囚を扱った小説に「宣告」新潮社、「ゼロ番区の四人」ちくま文庫が、東京拘置所での医官の体験をもとに「死刑囚の記録」中公新書や「死刑囚と無期囚の心理」金剛出版、「ある若き死刑囚の生涯」ちくまプリマー新書などがある。

香山リカ (かやま・りか)

精神科医、評論家。立教大学教授。「ヒューマンライツ人権をめぐる旅へ」ころから、「半知性主義でいこう」朝日新聞出版、など多数。

北川フラム (きたがわ・ふらむ)

アートディレクター。アートフロントギャラリー代表。「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」「瀬戸内国際芸術祭」総合ディレクター。主な編著作に「希望の美術・協働の夢 北川フラムの40年」角川学芸出版、「美術は地域をひらく」現代企画室、など。

嶋田美子 (しまだ・よしこ)

アーティスト、60-70年代文化研究。第二次世界大戦の文化的記憶とジェンダーをテーマとした作品を2019年「表現の不自由展」、2015年「Beyond Hiroshima」展（テルアビブ）展（国内外で展示。東京大学教育学部非常勤講師。著書に「ニルヴァーナからカタストロフィーへ」オオタファインアーツなど。

中村一成 (なかむら・いるそん)

ジャーナリスト。京都にんじんの会のメンバー。著書に「声を刻む 在日無年金訴訟をめぐる人々」インパクト出版会、「ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件」「ルポ 思想としての朝鮮籍」岩波書店、「映画でみる移民/難民/レイシズム」影書房などがある。

太田昌国 (おた・まさくに)

民族問題研究・編集者。大道寺幸子さんの甥にあたり、基金の運営委員の一人。著書に「「拉致」異論」、蓮池透氏との共著「拉致対論」ともに太田出版、「（極私的）60年代追憶」インパクト出版会、「（脱・国家）状況論」現代企画室、「【増補決定版】「拉致」異論——停滞の中で、どこに光明を求めぬのか」現代書館、「現代日本イデオロギー解説」藤田印刷エクセレントブックスなどがある。

角筈区民ホール

東京都新宿区西新宿4-33-7 (03-3377-1372)

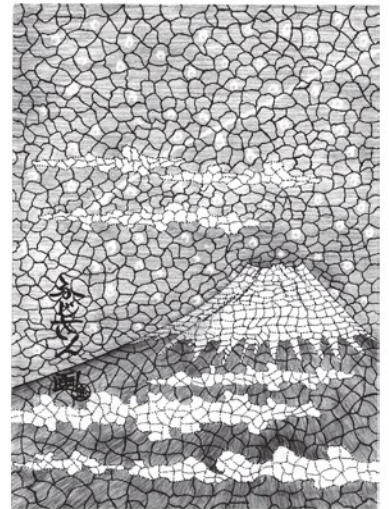


バス：WEバス（旧新都心循環バス）新宿駅西口京王デパート前21番バスのりば
「パークハイアット東京前」下車
京王バス 新宿駅西口京王デパート前20番バスのりば
中野行または中野車庫行「十二社地の上」下車
地下鉄：京王線「初台」東口より徒歩10分
都営大江戸線「都庁前」A5出口より徒歩10分
駐車場なし

2020年の応募作品から



井上孝敏
「積恋霊閨屏小町桜乃精 薄墨乃囚」
(本絵・月岡芳年)



金川一「ふじさん」



山田浩二「すぐに終るから」



風間博子「命 式〇式〇之壺 (獄窓パラダイス)」



露雲宇流布 (ローンウルフ)「可愛い少女と迷宮」